



鼎談

# 安心して子どもを産み育てられる、 子どもまんなか社会の実現をめざして— 湖南省

み、育てやすいまちにしていくための基盤整備として、企業誘致、住宅建設の二つを積極的に行っていると考えています。一方では行政も一つのビジネスだと思っていますので、理屈が合っても採算が合っていないと、ドライに割り切りながらやっていかねばならないと思っています。またソフト面においても、子どもが心身ともに健やかに育つために、施策を施しています。まず第一に、「子どもまんなか事業」の一環として、今後、学校の給食の無償化を計画しています。令和5年度から子育て負担が多い、中学生の給食の無償化を実現しました。少しでも親御さんの負担軽減につながればと思います。第二に、子どもの居場所づくり事業です。小学校の放課後の居場所が学童保育に集中していますから、既存の事業の隙間を埋めるために子どもが安心して過ごせる「こどもの居場所づくり」を新たに始めています。第三に、勤務などにより保護者が昼間不在となる夏休み期間中の小学校児童に、遊びや生活の場を提供しています。第四に、医療費の無料化です。就学前までの乳幼児に加えて、小中学生までの医療費の無料化に取り組んでまいりましたが、令和6年の4月からは滋賀県において高校生の年齢の子どもに対しても無料化となりました。第五に、妊娠期からの切れ目ない支援の強化に向け、児童福祉と母子保健が一体となった支援体制を強化するために、子ど



**●高齢社会への対応**  
清水理事…子育て支援に対して、と同様に、日本は今後の高齢社会に対応した政策も迫られています。市長として、又病院を経営されて、湖南省としてはどのような、対応をしようかとされていますか。  
生田市長…私は医療と介護のグループをまとめている立場にもあり、そこから見えてくる将来像もあります。私の病院は1,000人のスタッフがおりますが、病院や介護施設は地域包括ケアシステムにおける一つの大きな役割を担っております。

湖南省長

## 生田 邦夫

対談日:令和6年7月1日  
場所:湖南省役所

**●子育て支援**  
清水理事…次に、政策の話をお聞かせ願いたいと思います。今後の人口動向を考

えるとき、「子ども対策」は緊急を要します。そこで湖南省ではどのような対策を講じられ、今後どのような政策を推進しようかとされているのか。  
生田市長…急速な少子化は、女性が積極的に働きに出るようになり、晩婚化、未婚化が進み、子どもが少なくなりました。そうするとちよっと働きながら、子どもを産み、育てやすいまちに住みたいと皆様は思われます。そこで、近隣のまちより湖南省に住まいを持つための環境を良くする計画を考えています。滋賀県の工業生産が約9兆円、そのうち、甲賀市が約1兆円、竜王が約7,000億円、湖南省では工業団

全国滋賀県人会連合会理事  
大阪滋賀県人会副会長

## 清水 宏一

全国滋賀県人会連合会理事  
京都滋賀県人会副会長

## 大河内 徹心

清水理事…今日はご多忙にもかかわらず、連合会の会報誌の対談に貴重な時間を割いていただき、誠にありがとうございます。今年の10月1日が市制施行20周年のこと、誠にめでたいと思います。  
生田市長…ありがとうございます。

**●湖南三山**  
清水理事…湖南省、といえませんが「湖南三山」が話題になります。

生田市長…湖南省は新しいまちですが、古くから受け継いできたものもたくさんあります。これらをどう生かしていくか。その一つは東海道石部宿と湖南三山をどう結ぶか、もう一つは国の天然記念物に指定されている「平松のウツクシマツ自生地」といった文化財をどう活用させていくか、これが課題です。



に働けるように、女性が積極的に働きに出るようになり、晩婚化、未婚化が進み、子どもが少なくなりました。そうするとちよっと働きながら、子どもを産み、育てやすいまちに住みたいと皆様は思われます。そこで、近隣のまちより湖南省に住まいを持つための環境を良くする計画を考えています。滋賀県の工業生産が約9兆円、そのうち、甲賀市が約1兆円、竜王が約7,000億円、湖南省では工業団

**湖南省**  
平成16年、石部町と甲西町が合併。  
人口：54,069人  
面積：70.4平方km  
南部に阿星山系、  
北部に岩根山系、  
中央部に野洲川

ここにやん▶

地があるとはいえ、工業生産が約5,000億円、6,000億円です。物流倉庫、工場誘致、それに伴う住宅建設を積極的に誘致して働く環境を整え、経済を支えていく。それには交通網の整備をしながら、このまちから人口を減らさないでいくのが、少子化対策であり高齢者対策に繋がるものになります。  
私は個人の生業として病院等経営をしています関係で、医療、障がい者の関係、お年寄りの介護等の現場で、このまちの人口を減らさない様にしようとしています。それでも長期的に見て、1万8,000人程度は減少するかと思います。それをいかに食い止めようかと考えると、働きながら子どもを産



田楽茶屋



長壽寺



善水寺



常楽寺

●「いままですすんだ」「少子化」「高齢化」「過疎化」

清水理事…生田市長の話、将来の見通しと新聞などで人口減少や、子ども世代が減少し続けることが報じられている現状を重ね合わせるとき、「少子化」「高齢化」「過疎化」が想像以上にすすんでいることが痛切に感じられます。そこで、湖南市としてはどのように対応されているのでしょうか。

●**湖南市版小規模多機能自治の推進**

生田市長…湖南市としては、昨年3月「湖

地域で支え合いながら、高齢者や障がい者の権利擁護、人権等の問題を4つのエリア（市内4中学校区）で支え合っていく仕組みづくりが重要であり、高齢社会におけるこの仕組みの中で病院が果たす役割は大きいです。ここを中心にして生きていくしかないと思います。

湖南市の各地域で高齢化が進んでおり、高齢者の介護や認知症、介護予防、生活の困りごとなど様々な相談に対する総合相談窓口として4つの地域に設置した地域包括支援センターを中心に、医療、介護、福祉、それに地域が一体となり、地域でいつまでも元気で暮らすための地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。

少し話題は変わりますが、滋賀県の南側は大阪や京都で働く人たちのベッドタウンとして広がってきましたが、大津市と草津市、栗東市までは便利さを求められ、マンション中心の住まい環境が多く見受けられます。湖南市では一戸建てが中心で、車社会で広い駐車場が求められます。このまちが大きな発展を遂げてきたときに比べて、住み方、生き方が変わってきました。少子高齢化、人口減少の社会と向き合う中で、このJR草津線の沿線地域はどうやって生きていくか、5万4千人がどうやって生きていくか、模索して、身の丈に合った生き方を求めています。

大河内理事…甲賀市では海外労働者が4,500人とお聞きしていますが？

●「地方」に対する「国の考え方」

清水理事…東京への一極集中がまた明らかになり、これに対して地方の疲弊

●**小規模多機能自治をめざして**

生田市長…私が常々考えていますことは、夫婦の絆、親子の絆、地域の絆が変わりました。そして人口減少が進む将来においては行政がすべてのサービスを提供することには限界があり、



生田市長…湖南市は3,900人が在住していますが、一時期ブラジル国籍ペルー国籍の方が多かったです。現在はアジア系の方が多くなり、特にベトナム国籍の方が多く、最近はいンドからも来られています。それによつて住宅建設（寮）が多くなつており、いろんな宗教があり、生活様式が複雑化している為、それにも対応出来る環境を整えて、働いている方々の収入を増やしていかないと、生活することが難しくなっています。滋賀県は、99%中小企業で、大手企業と一緒にベースアップが出来るかという壁に当たっている企業も多いかと思えます。無理してでも給料を増やしていかないと、そこを何処かで見切りをつけたら、この国は行き詰まります。



●**小規模多機能自治の推進**

生田市長…湖南市版小規模多機能自治の推進

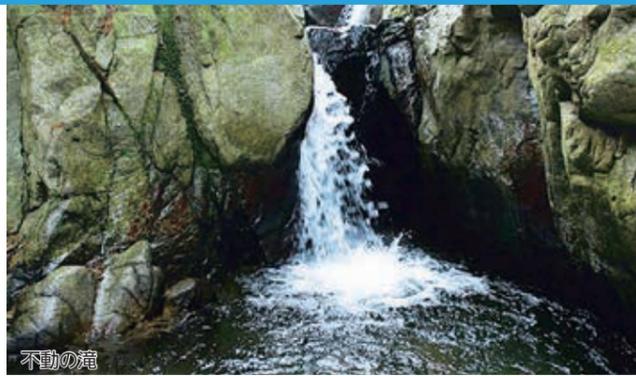
このことにより決定した各中学校区における小規模多機能自治の拠点で実施する分散的サービス以外の機能は東庁舎（行政）への集約的サービスとして取り組みます。

- ① 「行政が担わなければならないサービス」
- ② 「地域や民間事業者に担っていた方がより効果的なサービス」
- ③ 「それぞれが主体的に取り組むサービス」
- ④ 「それぞれが連携して取り組むサービス」

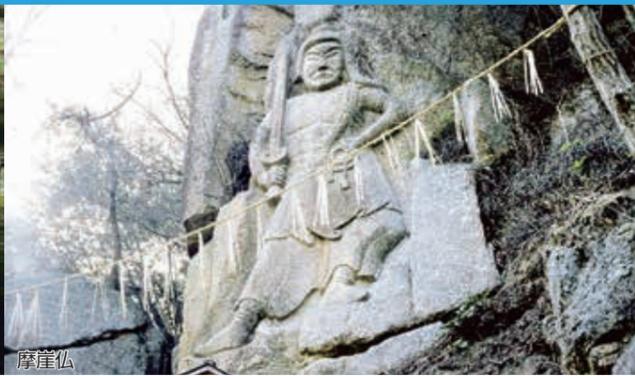
このことにより決定した各中学校区における小規模多機能自治の拠点で実施する分散的サービス以外の機能は東庁舎（行政）への集約的サービスとして取り組みます。

が限界に近づいていると考え、その対応は喫緊の課題であると認識しているようです。湖南市として国に対しての要望があれば教えてください。

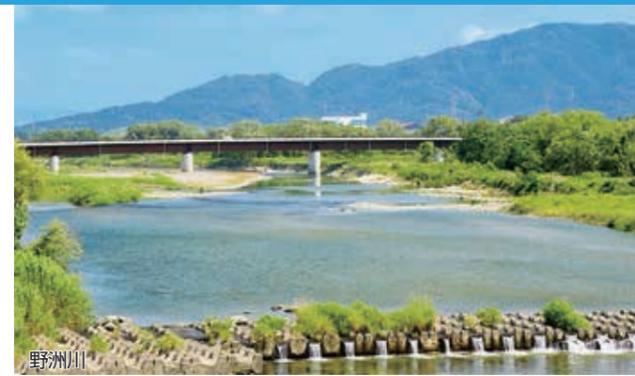
生田市長…一時期政権交代の時、地方分権を盛んに言っていました。中央集権に戻りました。しかし、中央集権だけでは生きていけない、お互いに助け合うことが大事だと思います。これが本音です。今おっしゃっていただきましたように地方は疲弊しています。第一に、高齢化による生活機能の低下、第二に、人口減少・過疎化による集落の生活支援機能の低下、第三に、地域における課題の多様化などにより、少子高齢化、人口減少に悩む自治体では税収低下や職員不足のため、それらへの対応が困難になりつつあります。これからは行政による対応のみならず、住民共助による対応が求められています。そこで、湖南市では地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々を中心になり、地域の人々による協力体制を構築しようとする市民みんなが動いてもらっています。これは国の考え方でもある「小規模多機能自治」を実践する試みです。



不動の滝



摩崖仏



野洲川



花火

**生田 邦夫 (主なプロフィール)**  
 昭和23年(1948年)2月27日  
 昭和49年3月 大阪医科大学医学部卒業  
 平成12年3月 甲西町議会議員  
 平成19年4月 滋賀県議会議員  
 平成30年4月 第100代滋賀県議会副議長  
 令和元年5月 第99代滋賀県議会議員  
 医療法人社団美松会理事長  
 令和2年10月 湖南市長に初当選

清水理事「小規模多機能自治」についての説明、ありがとうございます。これからの地方にとって大変重要な道筋であり、「地域存続への試金石」であり、他の自治体の模範になる施策であると、説明を受けながら、痛感した次第です。このほかにもう一点お聞きしたいことがあります。それは市内には近江学園もあり、湖南市の「発達支援システム」が充実していることです。

**●「発達支援システム」**  
**生田市長**「一昨年発達支援システムは20周年を迎えました。市としては組織の隔たりなく、行き詰まりを感じておられる当事者、心配される保護者に寄り添い、一緒に考え、「自立」に向けて実践を展開しています。これからも困難を抱える人、障がいのある人の自立に向け、あゆみを進めています。特長としては、支援が必要な人に対し、乳幼児から学齢期、就労期まで保健・福祉・医療・教育および就労の関係機関の横の連携による支援と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供するシステムです。具体的にはまず最初に発達段階に応じて、乳幼児健診や園での気付き、就学前の発達相談では、早期発見・早期対応に努めています。第二に、幼児から中学生までの言語や発達に困り感のある人を対象にした通級指導教室「ことばの教室」を設けています。「漠然とした不安感」「対人関係、学習の

ます。こういった新たなチャレンジをし、地域間の差別化を図っていかねばならないと考えています。

湖南市は市制施行20年迎えますが、古い時代では旧甲西町は農業で、旧石部町は宿場町でした。この二つの町の融合は簡単ではありませんが、前に、前にと進んでいかないといけません。私の父は伊賀で、母は甲賀で、住んでおりましたところは、県こそ違いますが、共通点が多く生活している違和感はありません。

20年前の甲賀地域では7つの町があり、甲賀は5つ、湖南が2つの町と合併し新しいまちへと生まれ変わりました。古くより野洲川に架かる横田橋を挟んで旧甲西、旧石部の二つの町の生活様式や生活圏域が分かれた歴史があり、7つの地域が一つの生活圏になれませんでした。合併後の今でもその名残が続いていると思います。それでも、前に、前にと進めています。

**清水副会長**「湖南市の特徴的な取り組みに感銘を受けるとともに、今後の行政や今後の地方自治の大変さを再認識しました。ありがとうございます。」

困難さ」といった不登校につながる要因が発達障がいの特性と関連していることもあり、特別支援教育コーディネーターを中心に巡回相談員等が対応しています。第三に、義務教育終了後の生徒や成人を対象に発達支援室が相談対応しています。その中で進路変更や就労支援も行っています。

**大河内理事**「湖南市としての観光誘致はいかがでしょうか。」

日本における地方への海外観光客はまだ少ない、又、日本人観光客も人間同士の絆が変わって来ていることから、奥さんはペット同伴で旅行をし、ご主人は別行動。ペットは今や家族の存在で、ペットの為にはお金を惜しま



近江学園

Conversation with the Mayor of Konan.  
 At Konan city there are three famous temples-Chouju-ji, Joraku-ji, Zensui-ji- these has a national treasure by autumn foliage, during the tourist season, it is crowded.  
 By the way as a current initiative of the city, we will promote the "child-centered project". First,from this year free school lunches will be provided to junior high schools, Second, creating a place for child to belong. Third, provide a place to play and live for elementary school children whose parents are absent during the day.  
 Fouth, free medical care,infants up to preschool, elementary and junior high school students.  
 Fifth, strengthening support from pregnancy period.  
 Then,in the future, with declining birthrate and aging population, we will be in an era where the government alone will not be able to respond. In the case not only public assistance but also self-help and mutual help are required.  
 Therefore, Konan city is aiming for small scale multifunctional self-govermant.  
 The trigger for this was the decline in life functions due to the aging of the population, the decline in the life support function, and diversification of issues in the region. These need to be addressed.  
 Therefore, the city has organized a "Regional town development council" based on wards and residents' associations. It has formurated and worked on the "Regional Community Plan".  
 One of the measure I would like to take up in Konan City is the developmental support system which has been around for 20 years.  
 First of all, according to the developmental stage, infant health checkups and preshool consultations shoud be used for early detection.  
 Second,there are 'language classes' for children from infants to junior high school students.  
 Third, we have established a 'special needs education counselor' to deal with factors that lead to school refusal.



下田なす

ない、その様な観光客が多くなりました。しかし土日だけでは続かない。夫婦の絆、親子の絆、地域の絆が変わったことが観光から見てもわかります。だから、皆が助け合わないと生きていけない時代になりました。これも小規模多機能自治なのです。

**清水理事**「海外の観光客が来られると、日本人は短期間の旅ですが、海外の方々は長期滞在型の旅をされるので、滞在型生活体験をしたいとの希望者があります。そうした方の為に、滋賀県では古民家がたくさんあるのでしょいか？」

**生田市長**「湖南市では古民家と言っても少なく、ちよつと難しいと思います。古くから続く湖南市の地場産業は農業、造り酒屋、下田の藍染、発酵食品の漬物等のPRに努め、また湖南市の観光協会では多様な食文化に対応できる食事の提供に取り組んでいただいております。」